アトピー、水虫に効いた！

ふろ湯を弱酸性にすると…

浴槽に取り付けられた「雄物川」。中に含まれるフミン物質がふろ湯を弱酸性にし、皮膚の改善に役立つという

「雄物川（おものがわ）」という弱酸性ぶろ装置を開発したのは、BHS環境研究所（本社・埼玉県）の萩谷千秋さん（六四）。商品名は秋田県を流れる雄物川から取ったもので、萩谷さんは「雄物川の水は弱酸性で、流域には肌のきれいな人が多いことで有名だから」と理由を話す。

装置は石炭を特殊な液体で加工したろ材を詰めただけのものだが、ろ材に含まれるフミン物質が効果をもたらしてくれるという。萩谷さんによると、フミン物質は古代にたい積した植物の死がいが微生物分解されてできた酸性物質で、深層海水にも含まれているという。

ろ材にポンプで空気を送り込むことによって、ろ材中のフミン物質をふろ湯全体に撹拌（かくはん）。塩素を含んでいる水道水をPH5前後の弱酸性にして塩素を分解し、さらに、ふろ湯の殺菌効果も高める―と説明する。

ここ数年はアルカリ水が健康維持によいともてはやされている。しかし、萩谷さんは「アルカリ性だと逆に、二十四時間ぶろで問題になったレジオネラ菌が発生しやすくなる。それと、水道水に含まれる塩素は皮膚に刺激を与え、角層を破壊する悪い物質。健康な人の肌は弱酸性なので、弱酸性のふろにつかれば、皮膚の改善につながる。わたしの体が証明済みだ」とキッパリ。

新装置開発者「体質改善、殺菌効果も」

装置は、ポンプと浴槽に入れる本体込みで十九万八千円と高価だが、昨年十一月に発売を始めたところ、アトピーに悩む人からの反応は上々。なかでも「五歳の娘に使いたい」と購入した静岡県在住の母親からは「弱酸性ぶろを使い出し、通院をやめた二月から急激な改善が見られた。三月になると、顔のはれは消え、ひっかく動作もほとんどなくなった。今ではふろに入るのが楽しくて、自らすすんで一日二―三回入浴している」と報告があった。

女児は二歳ごろからアトピーの症状が出始め、医者から塗り薬をもらい治療を受けていたが、改善は見られず、顔は赤くはれ、無意識に皮膚をかくため、着衣が血だらけになる状態だったという。

「『雄物川』の使用開始直後は塗り薬との併用だったので、弱酸性のふろ湯が薬に邪魔され、効き目がなかったのではないか。塗り薬は患者の体質によっては効かない場合もあるだろうから」と萩谷さんはいう。

ところで、「雄物川」で使うろ材はもともと、産業廃水の浄化を目的に五年ほど前に開発したもの。

「当初の目的はとん挫して、ろ材をどう生かそうか悩んでいたら、『ひょっとしたら』という思いで試しに使ってみた。すると、アトピーと水虫に効いたので驚いた。フミン物質は天然にある素材なので、化学合成で作った酸性物質と違って副作用はない」と、萩谷さんは自信を持っている。

（今堀守通）

がん電話相談

――六十四歳の父が膵臓（すいぞう）がんといわれ、家族が動転しています。数年前から糖尿病で通院していますが、糖尿病と膵がんは関係がありますか。

「今回発見された膵の腫瘍（しゅよう）と糖尿病は、直接の関係はなさそうです。数年前から糖尿病があることと、腫瘍が広がっていないと思われるからです。ただし、ごくまれにインシュリンと反対の作用を持つホルモンを出す腫瘍があります」

――また、主治医から手術が不可能だと言われました。もっと早い段階で見つけることができなかったのでしょうか。

「膵臓は胃腸の後ろに位置し、ちょうど魚のアジほどの大きさです。胃カメラでとらえられず、昔は早期発見が難しかったのです。しかし最近では超音波検査が普及し、小さいうちに発見され、手術によって治癒する症例が増えています。主治医が膵臓の手術が難しいと言ったのは、ご主人の手術が不可能という意味ではなく、一般の手術の中では膵臓の手術は高度な技術を要する」という意味ではないか。

――膵がんは、わかりにくいと言われますが。

「お父さんの場合はきちんと診断がついており、つまり、明できる状態です。膵臓へ手術をして、手術がどうかを決めますが、段階にいでしょう。がおう覚症状のですから、れる可能性は常の性質やそ断し、それか決めるべきで

膵臓がんの手術は…

《回答は…ん）研究会上野雅資・医員が当た

『がん電話相談』☎03・39…10です。

（柏倉…